

# 素敵なクラスづくりは しっかりした組織づくりから

人間というのは一人では生きていけない生き物だね。

必ず集団を作り、その中で生きている。自分一人ではこの世の中を生きていくことができない。

「俺は一人でも生きてみせる！」と言ったって、住んでいる家は自分で建てたわけじゃなし、食べ物は自分で畑を耕したわけじゃなし、着ているものはどこかで作られたもの。君たちの衣食住すべてが誰かさんのおかげ。

それに何よりも、今君たちがこうして生きているのは、おうちの人たちのおかげだ。生まれたばかりの頃、自分では食べることもできないのに、ちゃんと育ててくれたからこそ、今ここにいる。

最近、親の子ども虐待（ぎゃくたい）というニュースをよく聞かないかい？親が我が子を殴ったり、おしおきしたりして死なせてしまう事件だ。なんてひどい親！なんて感想を持った人もいるかも知れないね。

でも君たちは今ここにいる。ここで笑ったり、遊んだり、友達とけんかできたりするのも（けんかしろとは言わないが）おうちの人たちのおかげだね。

そんな風に、みんな誰かのおかげで生活しています。

そして、好むと好まざるとに関わらず、何らかの集団に所属しているね。

君たちがこの2年4組になったのも、自分から進んでではないでしょう。

しかし、集団に所属することになったその時から、また好むと好まざるとに関わらず、何らかの仕事をしなくてはならないのだ。

ということで、ここでひとこと。

## 一人はみんなのために、みんなは一人のために

こんな言葉知ってるかい？

この言葉、実はちょっと古いと人は言う。

「三銃士」というお話を知ってるかな？

このお話、フランスの新聞「シエクル」の小説として、1844年3月から連載されたものです。そんな昔のことは誰も知らないが、作者はアレクサンドル・デュマ。私の大好きな小説「巖窟王」（がんくつおう）（あるいは「モンテクリスト伯」ともいう）の作者です。小学生のころ子ども向け「巖窟王」を読んで、何と面白いお話なのかと感動しつつ読んだものです。

この「三銃士」の主人公はダルタニャン、そして三銃士がアトス、ポルトス、アラミスの3人。で、



何が「一人はみんなのために、みんなは一人のために」かと言うと、三銃士が剣を合わせて誓って言う言葉がこれだ。この間映画の「三銃士」を見ていたらこのセリフ言っていたんだな。

話は戻るけど、この集団2年4組も、中学校の一つの学級です。

中学校の学習内容をきちんと学ぶことや、中学生として、自分の進路を考え、選んでいくこと、また、将来社会人として必要な力を身につけることなど、目的を持った集団です。

その目的の実現のために、一人一人は役割を分担して、みんなのためになることをやっていってもらうことになります。

そういう意味で、一人一人は自分の仕事に責任を持って取り組んでいってください。

そしてみんなは、誰かが困っていたときには助けてあげたり、協力したりしてもらうことになります。

そうすることによって、この集団も高まっていき、素晴らしい集団となることでしょう。

また、そのことにより、一人一人も成長していくことでしょう。

そのような仲間であってほしいと思います。

さて、組織作りをしていく中で、もう一つ言っておきたいことがあります。

それは、係・班や座席などを決めるときの「好きな者どうし」という声です。何か仕事をするときにも、その仕事を好きな者どうしで、という声が強いです。

昨日も掃除の班のことで言ったけど、好きなものどうしで班をつくった方がいい時もある。

このような気持ちは自然なことだと思います。好きな友達と班を作れば、仕事の能率が上がったり、自分の意見を強く言えたり、意見の衝突が少なかったりということがあられるかもしれません。

ですがこれから先、社会に出ると、そんな都合よく気の合う者だけ、好きな者だけで集団が作れるでしょうか？きっとそんなことはないでしょう。

それともう一つ、考えの違う者、一度も一緒に仕事をしたことのない者、何となく気に入らない者と組んでみると、案外と新しい発想が生まれるものです。気の合う者どうしでは、結局自分の発想を抜け出ません。そういった意味で、同じクラスになった仲間と力を合わせて仕事をする中で、友達の新しい面を発見し、友達の良さをお互いに知り、学んでいくことができるのではないのでしょうか。

これから先、いろいろな係を決めます。座席を決めます。班を決めます。

そういう中で、一人一人が、クラス全体のことを考えること、ほかの一人一人のことを考えることが必要です。より楽しい学級生活を作るために、自分の世界を広げていく努力を望みます。

☆この学級通信中に登場する挿し絵と表紙は講談社刊行の「痛快世界の冒険文学」第21回配本「三銃士」によります。

原作：アレクサンドル・デュマ

(1802~1870。フランスを代表する人気作家。)

著者：藤本ひとみ 画家：東逸子

